

case no.22

北神生コンクリート協同組合

景気回復基調といわれる今こそ課題解決と基盤固めの好機となる

company profile

創立：1972年1月

事業内容：生コンクリートの製造・販売、技術研究、情報収集

ザクッと言うと **3** ポイント

1. オンラインシステムで完全共同販売を実現
2. 価格の変動や流通の変化など課題も多い
3. 景気回復基調と呼び声高い今、地盤固めを

生コンクリートとは？

コンクリートは、セメント、骨材、混和剤、水等の原材料を混ぜ合わせた建築資材である。その用途は多岐にわたり、建築工事全般に欠かせない。

生コンクリートとは、予め指定材料を混ぜ合わせ、固まらない状態で作業現場へ運搬されるものを指す。現場での練り混ぜが不要で、すぐ使えるだけでなく、経費も節減できる。また、工場で厳しい品質管理のもと生産することにより、品質の均一化が図れるという利点もあり、現在はコンクリートのほとんどが生コンクリートとして流通している。

畑違いの職種から転身されて10年、北神生コンクリート協同組合で事務局長を務める古東（こひがし）佐一郎氏と、長年事務局で業務に携わっておられる奥様の安子氏に話を伺った。



組合外観

組合の役目

中小企業が多くを占める生コンクリート業界で、官公需発注など、大規模工事を請け負うには組合の存在が欠かせない。

北神生コンクリート協同組合は、完全共同販売、与信管理、品質管理、技術革新を一貫して担うことを目標に設立された。以来、各種役員会を活発に開催し、情報交換や技術向上への努力が続けられてきた。全国生コンクリート品質管理監査会議の統一監査に合格し、組合員全社がマル適マークも取得されている。



古東氏



ご夫婦で組合の事務局を担われている夫妻

IT化にもいち早く取り組み、組合で請け負った工事は専用のサーバーとオンライン管理システムで一元管理されている。オンラインシステムにより、スケジュールや品質、割り当ての管理もスムーズになり、正確で高効率の完全共同販売が実現された。

中央会との関りも長きにわたり、法規制への対応、決算、許認可、登記等に関わる手続きや書類作成などで力を借りることも多い。組合員の取りまとめにも第三者である専門家の助言は不可欠だ。ちょっとした相談には電話対応もしてもらえて助かっている。「つつい何でも聞いてしまうんですよ」と身近な存在として活用されている。

現状の問題を見据えて

高度成長とともに大成長を遂げた業界であり、日本経済の激動を経験した。政治方針の変化に左右されることも多く、価格の変動にもさらされてきた。交通網の発達により輸送範囲が大幅に拡大し、地域外業者の流入も見られる。

阪神淡路大震災では、古東氏自身も建築物の被害状況検査の現場を経験され、基礎工事の大切さを痛感されたという。高品質な製品を安全確実に届けるには？生コンクリート業界にできることは？自問が続く。

景気回復基調と呼び声高い今こそ、地固めを考えるとときだと古東氏は語る。今後に向けて、品質の保持、設備投資を推進すべきときである。管理システムのソフトやハードの入れ替えも検討中だという。科学技術も日々進歩している。新素材に取って代わられることもあるかもしれない。現状に慢心することなく、新技術にも積極的に目を向け、組合員のため、地域社会のために奮闘される真摯な姿勢を見せていただいた。



中央会 岡田と

担当者からひとこと

官公需の受注に対して特に意欲的であり、かつ受注した契約は、十分に責任を持って履行できる経営基盤が整備されている組合であることを経済産業局が証明する「官公需適格組合の取得支援」をさせていただきました。2017年3月現在、県内の組合では18組合のみが取得されています。古東様には「組合運営」の相談をはじめ、「総会」、「中小企業団体兵庫県大会」など様々なイベントにもご参加頂いております。今後も皆様に喜んで頂けるようなお手伝いが出来たらと考えておりますのでよろしくお願いたします。



担当者：岡田 直之